

<評価> A：充実した取組を行った B：通常通りの取組を行った C：取り組んでいるが不十分である

推進目標 1 “みんなが思いやり・支えあう福祉”への理解を広げる

【取組・評価の視点】

- ①多様な情報を、わかりやすく発信する ②必要とする人に的確に伝える ③情報への関心を高める ④誰にでも関わることとして地域福祉を理解する ⑤学校、地域、家庭、職場など、身近なところで学ぶ
⑥多様な学習の機会やプログラムをつくる

(1) ICTも活用し、情報を細やかに伝える取組を進めます

団体名	平成30年度の取組	評価	評価の理由
社会福祉協議会	アクションプログラム推進協議会のプロジェクトチームの一つである「あしや発信局玉手箱」では、情報発信を目的として、シニア向けに「災害時に役立つスマホ講座」を実施した。講座の担い手として高校生や大学生に協力を得ることで、世代間交流を図ることも視野に入れた。(①～③, ⑥)	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> スマホ講座実施にあたり、市民・学生の協力を得ながら、ネットワークの活用と人材発掘を意識した取組になるよう配慮した。(①～③, ⑥)
			<p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> ICTを活用した情報発信については、福祉の視点を考慮しつつも、他の分野との協働を積極的に図る必要がある。例えば、印刷業界やIT業界、民間企業のノウハウを得られる協働が考えられる。

(2) 地域福祉について学んだり、考えたりする機会を増やします

団体名	団体名	評価	評価の理由
社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> アクションプログラム推進協議会として、地域イベントへ参加することで、地域福祉の周知・啓発に努めた。(④) 認知症サポーター養成講座を地域からの要請で実施した。(⑤) 市内小中学校で福祉学習を実施した。(⑤) 研修用の資機材の貸出を行った。(⑤) 「サマーチャレンジ 中学生福祉ボランティア学習」を実施した。(⑥) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> アクションプログラム推進協議会では、昨年度よりも事前に地域と関わりながら参加できるよう配慮した。(④) 新たに肢体に障がいのある人を講師に迎えることができた。(⑤) 福祉学習において、中学校からの依頼が増加した。(⑤) 高齢者施設や病院等から職員研修用の貸出依頼が増えた。(⑤) 教育委員会、防災安全課、高齢者施設の協力と県立芦屋高校ボランティア部やボランティア活動センター登録グループにボランティアの協力を得た。(⑥)
			<p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> アクションプログラム推進協議会の活動内容が固定化しており、内容を検討する必要がある。 小学校と中学校の体験プログラムの差別化が図れていない。 毎年参加する生徒にとって、プログラムの内容が同じものになってしまう。

推進目標 3 “できること・したいこと”での参加を進める

【取組・評価の視点】

- ①多様な人が参加できる地域福祉活動を進める ②健康づくり・介護予防や生きがいづくりの活動を進める ③社会参加や就労を支援する ④参加を積極的に呼びかける ⑤活動をサポートする体制を充実する
⑥活動場所や財源の確保、情報発信などの支援を充実する

(3) 「ひとり一役運動」を推進し、気軽に参加できる機会を増やします ★

団体名	平成30年度の取組	評価	評価の理由
社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> 受入機関26か所、ワーカー登録者数139人(①) 通信を出すことにより、定期的な情報発信ができた。(①, ⑥) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> 交流会や研修会を開催し、ワーカーと顔を合わせる機会が増え、活動の状況等ワーカーの声を聞ける機会となった。(①, ⑥)
			<p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域活動への新規参加者を増やすための働きかけが必要である。 ワーカー登録説明会を小規模でもいので回数を増やす。 ボランティア＝ひとり一役活動と認識されていると感じることがあるため、周知の方法、すみわけを再検討する必要がある。

<評価> A：充実した取組を行った B：通常通りの取組を行った C：取り組んでいるが不十分である

(4) 身近な「つながりの拠点」づくりを進めます

団体名	平成30年度の取組	評価	評価の理由
社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・アクションプログラム推進協議会のプロジェクトの一つとして「わがまちベンチプロジェクト」を継続的に取り組んだ。(①) ・生活支援コーディネーターと協働で、地域のつどい場の支援に取り組んだ。(①, ②, ⑤) ・生活困窮者自立相談支援事業の社会的孤立の対象者の活動場所として福祉センターと協働で苗の植替え作業に取り組んだ。(②～⑤) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つどい場を立ち上げる際の助成金申請の推薦等を行った。(①, ②, ⑤) ・社会参加しづらい若者を対象に案内することで、活動場所の一つとしても定着するようにした。(②～④) <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的引きこもりの若者は、社会参加も難しい人が多く、そうした人を誘うための活動場所としての展開ができていない。 ・ひきこもり当事者の家族会などの立ち上げ支援等も視野に入れて取り組む必要を感じている。 ・地域発信型ネットワークと連動する形で地域活動が充実するよう、地域住民に呼びかける工夫が必要である。また、人材発掘の働きかけも必要である。

(5) 健康づくりやいきがいつくりの活動を進めます

団体名	平成30年度の取組	評価	評価の理由
社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援コーディネーターと協働で、地域活動や活動者へのサポートを行った。活動者が集まる交流会を協働開催した。(①, ②, ④, ⑤) ・高齢者生きがい活動支援通所事業を市内9小学校区において、地区福祉委員会（福祉推進委員、民生児童委員）の協力を得て実施した。(②, ④, ⑤, ⑥) ・市民ふれあい運動会、高齢者スポーツ大会等に参加・協力した。(③, ④) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流会では、活動者が主体となるよう実行委員会形式を取り、役割分担を行った。(①, ②, ④, ⑤) ・各地区の福祉推進委員が、ひとり暮らし高齢者等がひきこもり防止として参加できるよう日ごろの見守りから気をつけて案内していた。(②, ④) ・福祉推進委員等に呼びかけた。(④) ・コープこうべの協力により、フードドライブで集まった食品提供会を実施した。(⑤, ⑥) <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援コーディネーターと協働の体制づくりに努める。 ・地区によって開催回数に偏りがあり、充足していない地域もある。集会所以外の開催場所を開拓する必要がある。場所提供してくれる施設や企業等の発掘

推進目標4 ニーズに気づき、支援につなぐ

【取組・評価の視点】

- ①“困りごと”を早めに発見する ②適切な相談窓口や支援につなぐ ③気軽に相談できる多様な相談先をつくる ④相談を適切な支援につなぐ ⑤相談を解決につなぐ仕組みを強化する

(6) “たすけ上手”や“たすけられ上手”な人を増やします

団体名	平成30年度の取組	評価	評価の理由
社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会と民生児童委員が協働で実施する「心配ごと相談事業」や「福祉を高める運動」で地域の困りごと等に対する支援を行った。また、相談から上がってくる困りごとを適切な関係機関へつないだ。(①, ②, ④) ・コミュニティソーシャルワーカーが地域からの困りごとに対応した。(③, ④) ・見まもりネットワーク事業において、地域の事業者からの相談に対応した。(③, ④) ・セブンイレブン潮芦屋店やまごのてにおいて、地域の方々の相談に対応した。(③, ④) ・福祉センター総合相談窓口にて、市民からの相談に対応し、相談内容に応じた関係機関へのつなぎを行った。(⑤) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別に地域の相談に対応した。(①～④) <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分から相談に行けない潜在的に問題を抱えている人を、どのように相談につなぐかを地域で考えることができるように働きかける。

<評価> A：充実した取組を行った B：通常通りの取組を行った C：取り組んでいるが不十分である

(7) 総合相談の仕組みとネットワークを充実します

団体名	平成30年度の取組	評価	評価の理由
社会福祉協議会	福祉センター総合相談窓口の初回相談については、生活困窮者自立相談支援事業を一つの関係機関と位置づけ、受け付ける相談を整理した。(③～⑤)	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】 総合相談の受付体制図を作成し、社協職員で共有した。(⑤)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 総合相談窓口の周知については、継続的に取り組む必要がある。</p>

推進目標5 多様な“困りごと”を包括的に支えるサービスや活動を充実する

【取組・評価の視点】

- ①「公」のサービスの内容や提供体制を充実する ②地域の多様な力を活かした活動を推進する ③新たなニーズや狭間のニーズなどに対応する ④担い手を増やす・支援する
⑤多様な主体や分野を超えた協働を進める ⑥複雑な課題を解決する取組を進める ⑦効果的で適正な情報共有を進める ⑧自立を支援するサービスや活動を進める ⑨担い手の意識やスキルを高める
⑩利用者や第三者の意見を活かす

(8) 分野別計画を地域福祉の視点で推進します ★

団体名	平成30年度の取組	評価	評価の理由
社会福祉協議会	地域福祉計画をマスタープランとして位置付けて、社協地域福祉推進計画の中で具体的活動として展開している。(②～⑥, ⑨, ⑩)	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】 平成30年度より推進計画の評価委員会を設置し、進捗管理を実施した。具体的には、職員自己評価と外部団体ヒアリングを実施し、単年度ごとの事業評価を実施し、次年度の取組や課題を明確にした。(②～⑥, ⑨, ⑩)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 事業評価の仕組みを定着させる。</p>

(9) “複雑な困りごと”の解決に向けた取組を充実します ★

団体名	平成30年度の取組	評価	評価の理由
社会福祉協議会	<p>・家計や離職（無職）の困りごとや母子家庭で生計中心者となっている母親の離職による相談に多く対応し、支援してきた。また、高齢の母親と未就労の息子の母子世帯の相談、高額家賃からの転居や家賃滞納、自己破産等に関する相談にも対応した。(③)</p> <p>・複数世帯では、複合的課題を抱えており、支援に時間を要した。(③)</p>	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】 ・福祉部生活支援課との連絡会議を立ち上げ、両者の制度理解、ケースのつなぎ方の確認、支援方針の共有などに取り組んだ。(③) ・支援調整会議について見直しを行った。(③) ・宅建業協会へ出向き制度説明をした上で、市内不動産業者へ周知啓発に努めた。(③, ⑤)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 行政及び関係機関との連携を密に図り、多機関協働による相談支援体制の構築に努める。また、地域住民の課題解決につながる地域づくりのための取組との連携を図る。</p>

(10) 担い手の意識やスキルを高める取組を充実します ★

団体名	平成30年度の取組	評価	評価の理由
社会福祉協議会	<p>・認知症サポーター養成講座を地域からの要請で実施した。(②)</p> <p>・まごのて協力員によりお茶会等の開催が定着している。(②)</p> <p>・コープこうべがコープ店舗で実施したフードドライブの食品を、市内の居場所活動をしているグループに提供する配布会を協働で開催した。(⑤)</p> <p>・総合相談窓口横で、毎月1週間のフードドライブを実施した。(⑤)</p> <p>・リユースフェスタにてフードドライブを実施した。(⑤)</p> <p>・見まもりネットワーク事業協力事業者として、市内郵便局の登録、協定締結に向け、取り組んでいる。(⑤)</p>	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】 ・フードドライブと情報交換しながら、連携が取れるように努めた。(②, ④, ⑤, ⑦) ・まごのて情報の広報に努めた。(②, ④, ⑦) ・市内でのフードドライブ普及啓発に努めた。(②, ⑤) ・認知症サポーター養成講座開催のために、各専門機関に講師依頼をした。(②, ⑤, ⑧, ⑨)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 ・見まもりネットワーク事業の協力事業者を増やすこと、協力事業者間の連携等の取組が進まなかった。 ・認知症サポーター養成講座受講者に対する活動の場の提供ができていない。</p>

<評価> A：充実した取組を行った B：通常通りの取組を行った C：取り組んでいるが不十分である

推進目標 9 地域福祉をみんなで進める仕組みをつくる活動を充実する

【取組・評価の視点】

①地域包括ケア・地域共生のまちづくり（「我が事・丸ごと」）を推進する ②多様なネットワークをつくり、つなぐ ③「地域福祉のプラットフォーム」を充実する

(11) 「地域発信型ネットワーク」を充実します

団体名	平成30年度の取組	評価	評価の理由
社会福祉協議会	・地域発信型ネットワークの各会議体の目的や機能を見直しつつ、住民主体で取り組める会議を意識した開催に取り組んだ。(①～③) ・こえる場！に参画し、イベント等を企画することで、ネットワークとネットワークをつなぐ役割を果たした。(①～③) ・地域支え合い推進員による協議体づくりに協働で取り組んだ。そして、地域活動者がつながる交流会等も協働実施した。(①～③)	A	【今年度工夫・努力したこと】 ・包括的な支援体制の構築に向け、地域発信型ネットワークを充実させ、地域力強化に取り組んだ。(①) ・地域支え合い推進員や地域包括支援センターとの協働に重点を置いた。(①～③) ・地域発信型ネットワーク以外に、地域福祉のプラットフォームが充実するよう協議の場を増やす努力をした。(②, ③) 【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 ・地域発信型ネットワークを全地区開催できなかったため、事務局の組織の見直しを検討する。 ・既存のネットワーク会議のより小さな単位での開催について検討していく。 ・各専門職間連携についてより意識した取組が必要である。